

西尾市

子どもサポートブック

ガイドブック

表紙

子育てマップ

- ① 基本情報（プロフィール）
- ② 基本情報（健康・医療の情報）
- ③ 基本情報（生育歴など）
- ④ 本人の特性
- ⑤ 生活のようす
- ⑥ コミュニケーション
- ⑦ 目標

別表

※編集や印刷をしたい場合は、そのページをクリックして下さい。
※お子様の成長に伴い、その④～その⑦は適時コピーしてご使用ください

～使い方ガイド～

【はじめに】

サポートブックとは、子どもに関わる人達に様々な情報を知ってもらうためのツールです。
サポートブックを関わる人達に渡すことで、それぞれの機関で情報を共有し、同じ方針、同じ方法で子どもに関わることができ、子どもが安心して毎日過ごすことの助けになります。

【使う時】

○支援者に子どもの情報を知ってもらう時

- ・保育園・幼稚園に入園するとき
- ・学校に入学、転校するとき
- ・担任の先生が変わるとき
- ・福祉サービスを利用するとき
- ・就職するとき

○子どもの成長記録として

- ・将来子どもの成長を後から振り返りたいとき

【使い方】

各ページをファイルに綴じ、必要な時に必要な部分だけ提出してください

子どもの発達や成長に応じて、内容を差し替えて下さい。

【書き方】

書けるところから書き込んで下さい。書きたくない部分に関しては無理に記入することなく、伝えたいことを書いて下さい。

西尾市

子どもサポートブック

ガイドブック



出生 0歳～

3歳～

6歳～

15歳～

18歳～



入園

○幼稚園・保育園

○特別支援学校(幼稚園・小学部・中学部)

入学

○小学校・中学校

進学

○進学

- ・特別支援学校(高等部)
- ・高等学校
- ・専門学校
- ・専修学校
- ・公共職業訓練施設
- ・職業訓練開発校
- ・フリースクール

就労

○一般就労

○就労訓練

- ・就労移行支援
- ・就労継続支援A型・B型

18歳以上

○進学

- ・大学
- ・専門学校
- ・専修学校
- ・公共職業訓練施設
- ・職業訓練開発校

○一般就労

○就労訓練

○生活介護

子どもの相談支援事業所

障害児相談支援事業所 しるばら	52-1850
西尾市社会福祉協議会 相談支援事業所	56-5900
相談支援センターあると	57-7644



○放課後等デイサービス

- ・授業の終了後又は休校日に支援が必要な子どもに対して療育を行います。

○職業相談等

- ・就職に関する相談や職業紹介を行います。

○日中一時支援事業

- ・日中における介護者の不在時等に活動の場を提供し見守りを行います。

○移動支援事業

- ・一人での移動に不安や難しさを感じる子どもの外出の支援を行います。

○児童発達支援事業

- ・就園・就学前に支援が必要な子どもに対して療育を行います。

○保育所等訪問支援事業

- ・保育所等を訪問して集団生活への適応のために専門的な支援を行います。

○相談支援事業

- ・サービスを利用するにあたって計画を作る他、生活全般の相談に応じサービスの利用方法や各支援機関の紹介・調整等のサポートをします。

○短期入所

- ・介護者が病気などの理由により介護が出来ない場合に、施設等で宿泊し必要な支援を行います。

○居宅介護

- ・自宅で入浴、排せつ及び食事等の介助など、生活全般にわたる援助を行います。

○日常生活用具

- ・自力での日常生活をおくる為の用具を購入する際の費用を一部給付します。

○補装具

- ・日常生活を容易にするための用具にかかる費用の一部を給付します。



① 基本情報（プロフィール）

年 月 日 （ 年生） 作成

ふりがな	にしお はる	年齢	6 歳	性別	男 女
名前	西尾 春	生年月日	〇〇 年 9 月 1 日	生まれ	
呼び名	はるくん				

名前とふりがな、年齢、性別、生年月日とふだん多くの人に呼ばれている「呼び名」を書きましょう。

住所	〒 446-〇〇〇〇 西尾市寄住町下田22番地
----	----------------------------

本人の住所を書きます。

連絡先	①氏名：	花子	本人との関係：	母	T E L (0563) 〇〇 - ΔΔΔΔ (自宅)
					L 090-××××-〇〇〇〇 (携帯)
	②氏名：	太郎	本人との関係：	父	T E L () - (自宅)
					L 090-ΔΔΔΔ-〇〇〇〇 (携帯)
	③氏名：	次郎	本人との関係：	祖父	T E L (0563) ×× - 〇〇〇〇 (自宅)
					L - - (携帯)

保護者の方の連絡先を記入します。欄は3つありますが、3つとも書く必要はありません。電話番号も自宅か携帯のどちらかでも構いません。

園・学校	園・学校名	西尾市立こども小学校	学年	1	年生
	TEL	(0563) 〇〇 - ××××	担任	西尾	先生

所属している幼稚園・保育所・学校などの名前と学年、連絡先を書きます。

※個人情報になりますので、必要と思われるところを記入してください。

② 基本情報(健康・医療の情報)

年 月 日 (年生) 作成

本人の 情報	診断名	自閉症スペクトラム	主な症状 本人の特徴	いったんこうと決めたらルールは中々変え ません色々なことを想像することが苦手で 言葉で説明されても十分に理解出来てい ないことがあります。
	診断名	脳性まひ	主な症状 本人の特徴	体幹機能障害。首はすわっていない。 背骨が曲がっている(右側わん)。視力 0.1。 移動はバギーを使う。
	診断名		主な症状 本人の特徴	

診断名が確定している場合の
みで構いません。

	機関・主治医	疾患名	内容
かかりつけ医	〇〇クリニック	発達障害	診察・服薬 1回/月
	△△病院 循環器科	心室中隔欠損	手術後の定期健診 1回/6ヶ月
	〇〇医療センター 小児科	脳性まひ	経過観察 2回/年 リハビリ 1回/月

「内容」の欄にはいつも飲んで
いる薬等があれば記入して
下さい。
リハビリや言語訓練等、医療
機関で受けているものがある
場合にも記入してください。

アレルギー なし ・ あり

内容

エビ、カニ

対応

少しの量でも息苦しくなってしまうため、お菓子の内容にも注意して欲しい。間違っ
て食べてしまい反応が出た時には、救急車を呼んでほしい。

てんかん

なし ・ あり

頻度

内容

突然表情がなくなってぼーとし、よだれがでる。目を開いて体が震えて固くなり、それ
が数秒続く。その後、ふーっと息を吐きながら、疲れた様子で力が抜ける。

対応

薬でコントロールしている。体は揺すらず、呼吸しやすいようにボタンやベルトはゆるめ
る。発作後に体を横向きにする。1分以上発作が続くようなら救急車を呼んでほしい。

服薬

なし ・ あり

朝 ・ 昼 ・ 夕 ・ 眠前

内容

〇〇〇〇〇 1回1包

医療行為

なし ・ あり

内容

痰が自分で出せない為、適宜電気式吸痰器で
吸引が必要。

「内容」の欄には食べ物や動物、ハウスダストなど、アレルギー症状が出るものは全て記入してください。

薬の内容や飲ませる時に必要な配慮等を記入して下さい。

痰吸引や導尿、酸素吸引、経管栄養、自己注射など医療行為に当たる物を記入してください。

③ 基本情報(生育歴など)

年 月 日 (年生) 作成

出生時

年	月	日	出生 (妊娠	週	日)
体重	g		身長	cm	

乳幼児期

発達の記録	月齢	発達の記録	月齢
くびのすわり	か月頃	寝返り	か月頃
はいはい	か月頃	おすわり	か月頃
つかまり立ち	か月頃	歩行	か月頃

母子手帳に記入がしてある場合は、それを参考にして記入してください。

入園・入学

	日にち	年齢	所属名
療育支援	年 月 日	2 歳	〇〇教室
保育園・幼稚園	年 月 日	3 歳	△△園
小学校	年 月 日	6 歳	□□小学校
中学校	年 月 日	12 歳	◎◎中学校
高校	年 月 日	15 歳	
	年 月 日	歳	
	年 月 日	歳	
	年 月 日	歳	

両親の年齢	
父	母
30才	27才
33才	30才
39才	36才
42才	39才
45才	42才

これまでの経過の記録として、通ってきた園や学校等を記入してください。

「両親の年齢」の欄には、ご家族の未来を見るために、将来、園や学校を卒園・卒業する際の両親の年齢を予め記入してみましょう。

④ 本人の特性

年 月 日 (年生) 作成

特に配慮のいる状況と、その対応

○大きな音が苦手なので運動会、音楽会などの行事の時は前もって大きな音楽が流れることを本人に伝えておき、しんどくなったら出ていけるようにしています。

○暗いところをととても怖がります。恐怖でパニックになるので予めわかっている場合はすぐに明るい所に移れるようにしています。

○走っている自動車を触ろうとすることがあるので、道路を歩くときは車道側を歩かないように手を繋いでいます。

○歩くことや体をしっかりと起こすができず、ほとんど横になっているか姿勢を保持す椅子に座っています。身の回りのことは介助が必要です。

○体温の調節が難しいです。足がとても冷えやすいわりに、上半身は熱がこもりやすいです。室内の温度や、着る物などで調整してあげています。

○うつ伏せになると呼吸がしにくいようで、表情が無くなり息が荒くなります。理学療法士さんの指導を受けながら、少しずつ色々な姿勢を取れるように練習しています。

何よりも優先して欲しいような配慮について書いてください。本人が安全に過ごす為に、最低限これについては注意をして欲しい、ということを書きます。

本人の好きな遊びや得意なこと（屋内 / 屋外 / 注意・配慮点）

○絵を描くことが大好きです。「お絵描きをしていいよ」と紙とペンを渡すとじっと座って絵を描いています。

○外遊びも好きですが、お絵かきほど集中時間は続きません。

○扉がずっと開きっぱなしの場合、扉の外に気になる物を見つけると出て行ってしまいます。（「戻っておいで」と声をかけると、聞こえれば戻ってきます。怒ってもなぜ怒られたか分からないようです。.....

○バギーに乗って散歩をすることがとても好きです。風が顔に当たると、よく笑います。ちょうちよが飛んでいると、不思議そうな顔をします。太陽が当たりすぎると、顔が赤火照ってくるので、時々日影に入るようにしています。

○慣れた人に歌を歌ってもらうことが好きです。「ドーン」「ぱっ」という擬音語がたくさんある絵本を読んでもらうことも好きです。

○ゆっくりとですが、腕や足を動かすようになりました。腕や足に何かが当たると、にやりとした表情をします。当たった物を見せてあげると、声を出して笑います。

本人の好きな遊び、得意なことなどを書きます。支援者が本人とコミュニケーションを取るのに助けになりそうな遊びがあれば書いてください。

本人の嫌いな遊びや苦手なこと（屋内 / 屋外 / 注意・配慮点）

○大きな音が苦手で、大勢（30人以上）の拍手や大音量の音楽が苦手です。

○急な予定変更が苦手です。（前もって知らせておくか、直前にでも本人に伝えておく大丈夫）

○慣れていない人いきなり体に触られることが嫌いです。触る部分を言葉で伝えながら、ゆっくり触ることを積み重ねると、徐々に許してくれるようになります。

○体を大きく揺らされたり、強く押されたりするといった、ダイナミックな遊びは苦手で、泣き出してしまいます。

○眼鏡をつけていますが、レンズがたくさん汚れていると周りが見えづらくなり、不安そうに泣きます。眼鏡と涙を拭いてあげ、しばらくすると落ち着きます。

嫌なことや苦手なことについて書きます。支援者が本人の嫌なことなどに誘ってしまい、本人との関係が悪くならないように気を付けて欲しいことを書いてください。

⑤ 生活のようす

年 月 日 (年生) 作成

【 生活の場面 】

トイレ

【 本人の状況 】

○まだ、トイレを誰かに訴えることはしません。
○おしっこがしたくなると、そわそわしてズボンの中に手を入れようとしたりします。
○うんちは、いつも晩ごはんを食べた後にすることになっています。

【 支援者に伝えたいこと 】

○そわそわしてズボンの中に手を入れようとしたり、ズボンの上からおちんちんを触ろうとしていたら、トイレに連れて行ってください。
○便器の前に立てば、自分でズボンを下ろしてオシッコができます。ズボンをはき直すときには、手助けがいります

【 生活の場面 】

パニック

【 本人の状況 】

《本人がしたいと思っていることを妨げられたとき》
○まだ遊ぼうとしているときに、無理やりに終わらせようとされたときや、本人が使っているおもちゃを他のだれかに取られたときに、パニックを起こします。(大きな声で泣き叫ぶことが多いです)
《イヤなことをさせられようとしているとき》
○行きたくない場所に無理に連れて行かれそうになった時にも、パニックを起こします。
《怖いものや苦手なこと、嫌なものがあったとき》
○イヌの鳴き声が苦手で、イヌが近づくとパニックを起こします。

【 支援者に伝えたいこと 】

○落ち着くまでに、短いときで 5 分程度、長いと 30 分くらいかかることもあります。他人との関係で問題がなければ、そのまま知らん顔をしていてください。過剰に反応すると、さらに大きなパニックを誘発することがあります。少し落ち着いたときに、大好きなトーマスの絵本を見せたりして、気分転換をはかるのが良い方法です。

「本人の状況」の欄には、本人の状況（支援が無い場合の本人の行動、行動がよく起こる状況、行動が起こった時の周りの対応など）を中心に具体的に記入してください。また、読む人が理解しやすいように具体的な場面を思い浮かべて書いてください。

「支援者に伝えたいこと」の欄には「支援方法」と「支援によって現在本人ができること」を「〇〇すれば□□できます」という形式で記入します。また、現在の「できること（ここまではできる）」を記入すると、次の支援方法が考えやすくなります。

※別表

※別表に「こんな情報があれば支援がしやすくなります」の表があります。ライフステージの切り替わりの時など、引継ぎ時に知ってもらいたいことなどを表を参考に記入してください。

【 生活の場面 】

食事

【 本人の状況 】

- おとなの膝に入れ、抱っこされたような姿勢で食べています。
- 細かい粒状のミキサー食です。甘いものが大好きです。食材の水分が多すぎるとせき込むことがあります。ひとくちずつスプーンやフォークを下唇にそっと当てると、食物を取り込もうとします。
- 口を閉じて食べ物を取り込むことがむずかしいです。
- 口を動かし、噛んで飲み込みますが、口の中に食べ物が残っていることがあります。

【 支援者に伝えたいこと 】

- 食べ物がのどにひっかかりやすいので、ゆっくり食べられると良いです。同じ姿勢が続くとつらくなるようで、不快そうな声を出します。途中で姿勢を変えたり背中をさすったりする時間があると良いです。
- 舌でスプーンやフォークを押し出すときは、嫌いな物かいらないという合図だったりします。
- あごを引くような姿勢や下あごを支えてあげる介助してあげると、口を閉じやすくなるようです。
- 口の中に食べ物が残っているとき、ゆっくり「ごっくん」と言ってあげると飲み込もうとする動き

「本人の状況」の欄には、本人の状況（支援が無い場合の本人の行動、行動がよく起こる状況、行動が起こった時の周りの対応など）を中心に具体的に記入してください。また、読む人が理解しやすいように具体的な場面を思い浮かべて書いてください。

【 生活の場面 】

急に笑ったり泣いたりする

【 本人の状況 】

- お散歩や絵本を楽しんでいる途中、急に泣き出すことがあります。反対に、泣いていたと思ったら、急に笑い出すことがあります。
- ◀大きな音や暗いところ▶
何かを楽しんでいても、大きな音や暗いところに入ると気持ちが崩れてしまう様です。
- ◀前後の状況に関係がないとき▶
特にきっかけがなくても泣き出すことや笑い出すことがあります。どうやら、頭の中で出来事を思い出しているように思います。

【 支援者に伝えたいこと 】

- 大きな音であれば、耳に手を当ててあげながら「大丈夫だよ」と声をかけてあげてください。少しずつ落ち着いていきます。
- 暗いところは、入る前に「暗いよ」と教えてあげてください。少し我慢しようと頑張ります。なにか明かりがあると安心できるようです。
- 泣き出したり笑い出したりした理由がわからなければ、表情に合わせて「大丈夫だよ」「何かおもしろかった？」と声を掛けてあげてください。頭や手を撫でてあげたりすると、落ち着きやすいです。

「支援者に伝えたいこと」の欄には「支援方法」と「支援によって現在本人ができること」を「〇〇すれば□□できます」という形式で記入します。また、現在の「できること（ここまではできる）」を記入すると、次の支援方法が考えやすくなります。

⑥ コミュニケーション

年 月 日 (年生) 作成

本人 → 周囲の人 (表現手段)

表現手段

複数選択可 (□にチェックをしてください)

- 会話できる 2語文程度で言う 単語で言う ()
 意味のない声を出す 指差しをする 大人の手や服を引っ張る
 カードなどの道具を使 → (道具の種類:)
 その他

・おとなや物に視線を向けます
 ・物を見せたり声を掛けたときの表情からおとなが表現したいことを予想します。

○要求のとき

・注意を向けてほしいときには、手を握ってきます。
 ・欲しい物が本人の目の前になく、自分では届かない場所にあるときは、手を引いて連れて行きます。

・じっとおとなを見つめます。食べ物やおむつなどを見せてあげ、そのときの表情や前後の状況から要求したいことを予想しています。
 ・散歩に行きたいときはバギー、歌を聞きたいときはラジカセをじっと見る場合があります。

○拒否のとき

・イヤなとき、例えば知らないところへ連れて行かれるときは、嫌がってしゃがみこんだりします。

・眉間にしわを寄せて、嫌な顔をします。
 ・「うーん」という低く嫌そうな声を出します。
 ・最後は泣き出します。

「その他」の欄には本人独特の表現方法など、上のチェック項目に当てはまらない表現の仕方あれば記入してください。
 例：おちんちんを触っていたらオシッコがしたいというサインです。

「要求のとき」「拒否のとき」の欄には本人の表現方法について具体的に記入します。

周囲の人 → 本人（伝達手段）

伝達手段

複数選択可（□にチェックをしてください）

- 話し言葉で理解可
- 指差しをする
- カードなどの道具を使う → （道具の種類： ）
- 大人からの指示
- 単語程度なら理解可
- 文字で書く

・してほしいことを伝えるとき、例えば遊びが終わって帰るときは、10分前くらいに大きい時計の針を示して「長い針が6のところに来たら帰るよ」などと、あらかじめ伝えてもらえると気持ちが切り替えやすいようです。

・してはいけないことを伝えるときには、本人の顔と目をこちらに向かせて「だめ」と言うと分かります。

・大人の方に注意を向けさせるには、例えば何かを夢中でしているときは、急にやめさせるのではなく、少し様子を見てから名前を呼んで、**身体の向きをこちらに向けさせてください。**.....

・普段聞いている言葉は、通じていると思います（例：「学校行くよ」「パパ帰ってきたよ」「ごはんだよ」「散歩行くよ」）。

・見せて伝えてあげられることは、できるだけ見てもらうようにしています。いきなり見せると驚くので、名前を呼んでからゆっくり視界に物を入れるように気を付けています。

普段の生活の中で何気なくしているやり方や伝え方を思い出しながら書いてみてください。

⑦ 目標

年 月 日 (年生) 作成

それぞれの環境での目標

本人

- ・自信を持って楽しく活動に参加する
- ・好きな人や好きな遊びを楽しみながら、いろいろな経験を増やす

家庭

- ・自分で取り組むことに気付き、やり始める姿が増える(例:朝の身支度、帰宅後の手洗い)
- ・いろいろな味の食事やおやつを、噛んだり飲み込んだりする

保育・教育

- ・刺激が整った環境の中で、集中して授業に参加できる時間が増える
- ・目に入った物に手や足を伸ばし、その物に触れる動きが増える

相談支援事業所

- ・自分で出来ることは自分から積極的に行う。出来ることを少しずつ増やす。
- ・おとなのかかわりを楽しみ、心地よく生活しながらいろいろな経験を積む

「本人」の欄には、本人と話をしたり様子を見ながら、本人の意思を尊重しながら記入してください。
例えば「1年後」など学年ごとにたてられうとより良いです。

各支援機関での計画

- ・学校：個別の教育支援計画
- ・事業所：個別支援計画
- ・相談支援事業所：サービス等利用計画

がある場合には記入せず、一緒に保存しておき、必要な時に確認をしていただければ大丈夫です。

事業所

- ・スタッフと一緒に、リズムに乗った体操やサーキット遊びに取り組む
- ・スタッフと一緒にいろいろな歌を聞いて、好きな歌が増える

事業所

こんな情報があると支援がしやすくなります

別表

<p>パニック</p>	<p>パニックの有無とその対処法。初めての場面での配慮事項 【説明】学校の教室や体育館は広いため音が反響します。大きな音や人の騒がしい音が苦手な子どもにとっては苦痛になります。その際、前もって知らせておいたり、音の過敏さについての理解を深めるなど、わがままではないことの理解を深めるためにも、具体的な支援方法が役立ちます。</p>
<p>運動面</p>	<p>多動性・衝動性の有無 例) 目に入ったものが気になって、すぐどこにでも行ってしまいます 【説明】安全管理上配慮しなければならないことがわかっているならば、支援しやすくなります。また、短時間でも座って取り組める活動を知らせてもらえれば、なお良いと思います。</p>
<p>言語・指示</p>	<p>人の話を聞くことができるのか、聞いて理解することはどれくらいできるのか 【説明】学校や事業所では集団で活動を行うため、指示者の指示に従って活動することが求められます。指示の長さや内容、指示の形式（個別指示）、指示の際に用いる手がかり（指差しなど）などの具体的な情報が役立ちます。</p>
<p>集団での過ごし方</p>	<p>友達とのコミュニケーションの取り方 【説明】発達の気になる子どもの中には、友達との対人関係をうまく作ることができなったり、トラブルを起こしたりしてしまう子どもがいます。このような子どもに、継続した支援を行うために必要な情報です。</p>
<p>継続して欲しい支援</p>	<p>現在うまくいっている支援で、引き続き行ってほしいこと 【説明】ライフステージが変わると取り巻く環境も大きく変わります。新しい環境は不安です。困ったときにうまく相手に伝えることができない場合は、あらかじめ中学校に伝えておくこととスムーズにできる場合があります。</p>
<p>困った・疲れた時</p>	<p>わからないとき、困ったとき、疲れたときを伝えることができるか、またその伝え方 【説明】ライフステージが変わると対応する支援者も変わります。困ったときに本人がどのように周りの支援者に伝えるかを知らせておく必要があります。</p>